

もって知りたい ふるさと

61

智識寺今昔物語

清源山智識寺の「大御堂」と「木造十一面観音菩薩立像」は千曲市内で最も古い建造物・仏像とされています。観音菩薩立像は昭和12年、国宝に指定されましたが、現在は国指定の重要文化財です。その他、長雲寺の「木造愛染明王坐像」（稲荷山）、「水上布奈山神社本殿」（戸倉）なども国指定の文化財です。

伝承によれば、智識寺は奈良時代、天平12年（740）第45代聖武天皇の勅願寺として冠着山麓に開山したとされ、その後、大同2年（807）坂上田村麻呂が御堂の修理を行ったといわれています。

鎌倉時代、建久9年（1119）現在地に源頼朝が「七堂伽藍」を建立しました。七堂とは仏殿・法堂・三門・庫院・僧堂・浴室・東司（お手洗い）

で、僧侶の住む寺院堂舎の総称です。これを御祈願所と定めて山号を「清源山」、院号を「花蔵院」、寺号を「智識寺」として仁王門と仁王尊（市指定の有形文化財）を寄進したといわれています。

現在の大御堂は、室町末期（1573年頃）に創建され、徳川時代には真田家代々の祈願所とされています。明治10年（1877）、上山田小学校の前身である山田学校が東国寺から智識寺に移転し、その後明治24年（1891）4月に現在の地に移転するまでの14年間、本堂を含め学校として使われました。



智識寺の大御堂

大御堂の本尊「十一面観音菩薩立像」は信州随一の樺一本彫り立像です。平安末期の作とされますが、一説には行基作とも伝えられています。

昭和41年の松代発地震の折には、東京国立博物館に一時避難したこともありました。

智識寺は、かつて全国に多数の信者がおり、関東方面には当山直参講も多数あつて、春から秋にかけて各講中の参詣客で賑わいました。現在は地元地域の浄財により支えられています。アジサイ寺として有名ですが、近年紅葉も美しく見事です。

大御堂は昭和28年に昭和の復元修理を行いました。昨年の平成の復元修理で茅葺き屋根が新しくなり、郷土の尊い遺産として守り継がれています。

参考文献 『上山田町史』 『上山田の百年』 上山田 宮島信明

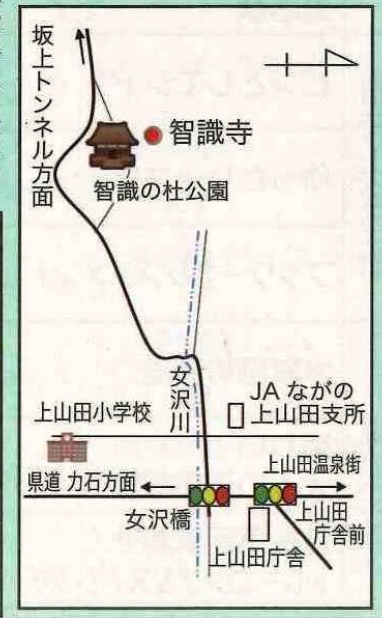
〈茅葺き屋根修理について〉
昭和53年の葺き替えから約40年が経過し、屋根が傷んできたため、平成29年の春から夏にかけて葺き替え工事が行われました。

葺き替えには阿蘇山・富士山産の茅約2000束が使われ、茅葺きの伝統を受け継ぐ京都美山の職人が腕を振るいました。工事を終えた今、大御堂はかつての美しいたたずまいを取り戻しています。

上山田公民館



葺き替え作業の様子



重要文化財 本尊「十一面観音菩薩立像」
写真 千曲市教育委員会提供